

内閣府特命担当大臣(こども政策担当)賞

中学生の部



「あしたも いっぱい わらおうね」

坂城町立坂城中学校
2年 吾妻 啓志さん
あがつま たかゆき

僕は五人兄弟で、三人の弟がいます。その中の、六歳の弟には原因不明の発達の遅れがあり、重度の知的障害があります。また、てんかんという病気をもっており、月に二回くらいてんかん発作がおこります。てんかん発作とは、脳にある神経細胞の異常な電気活動により引き起こされる発作のことで、弟の場合は、意識を失って目が上に向いたり、体がこわばってけいれんを起こしたりします。初めてけいれん発作を起こした時は、けいれんが一時間以上も続き、このまま死んでしまうのかもしれないとドキドキしました。体調が悪い時は、機嫌も悪く、一日

中うなったり、叫んだりしています。でも、機嫌が良い時は、うつ伏せになって、リズミカルに体を上下にゆすったり、ケラケラと笑い、見ていると微笑んでしまうような笑顔を見させてくれます。

弟が生まれたとき、僕は兄弟が増えて嬉しい気持ちでした。でも、それからしばらくして発達の遅れがあるとわかりました。一歳を過ぎててもはいはいができず、二歳を過ぎてても話すことができず、とても悲しい気持ちになりました。障害のない普通の弟が生まれてほしかったな、と残念な気持ちでした。

三歳の時には、てんかんの影響で機嫌の悪い日が多く、さらにもう一人弟が生まれたので、母が二人の弟をずっと抱っこしていなければなりません。夜になってもご飯ができていないことが何度もあり、そんな時は、小学生の僕がご飯を作らなければなりません。兄と交互に弟を抱っこしたり、生まれたばかりの弟にミルクを作ってあげることもありました。毎日が大変で、「なんでこんな弟が生まれてきてしまったのだろう。」と弟を嫌う気持ちになっていました。「オレたちヤングケアラーだったよ

な。」と、兄が苦笑いしながら話したことがあります。が、正直なところ僕は大変すぎて、あの頃のことをあまり覚えていません。生まれたばかりの弟のことも、あまり思い出せずさびしい気がします。

でも今は、あの頃の僕とは違います。弟も障害やてんかんがあり、毎日大変な思いをしているんだなと理解できるようになりました。てんかんの薬は三種類もあり、一日二回も飲まなければいけません。が、まずそんな顔をしながら頑張つて飲んでいます。時々、検査で入院することがありますが、採血や検査も泣かずに受けているそうです。リハビリも毎日のように取り組み、偉いなと思います。以前は弟が叫ぶとうるさいなと感じましたが、話せないから叫ぶのだろう、叫ぶ時はすぐくつらいのだと思えるようになりました。

今は障害のある弟が好きです。掃除機をずりばいで一生懸命追いかけている姿や、お風呂でケラケラと笑っているのを見ると、癒されます。六歳になっても話すことも歩くこともできず、自分では何もできませんが、弟には周りの人を幸せにできる最高の

笑顔があります。「なんでこんな弟が生まれてきてしまったのだろう。」と思っていたことを心から謝りたいです。「僕の弟として生まれてきてくれてありがとう。」と伝えたいです。

僕は料理が得意です。弟が大変な時に母の手伝いをする事が多く、料理の腕が鍛えられたのだと思います。また、僕たち兄弟は、友達に自慢できるくらい仲が良いですが、それも弟のおかげだと思っています。弟の存在が兄弟の絆を強くしてくれたのだと思います。

これからも困難なことにぶつかると思いますが、今まで以上に大切な家族の一員として、大変な時こそ兄弟で助け合っていきたいと思っています。弟の笑顔をもっと増やせるように、弟が喜ぶもの、大好きなことを見つけていきたいです。そして弟には、いつまでも、にこやかで、家族を和ませるような存在であってほしいと思います。「はるちゃん、あしたもいっぱいわらおうね!」